

インターバンクの声（2015 年 8 月 4 日）

9 月はおろか、年内の利上げ観測すら大きく後退させるようなインパクトのあった金曜日の米第 2・四半期雇用コスト指数の悪化ほどではなかったが、昨夜の 7 月の米 ISM 製造業景気指数と 6 月の建設支出結果も市場予想を大きく下回った。当然ながら指標結果にドル売りの反応も見られたが、昨夜はそれ以上に、中国の製造業関連指標が軟調だったことや、ニューヨーク・ダウ平均や資源価格の下落がドルの上値を抑えており、特に対円での軟調地合いは午後途中まで続いた。それでも金曜日の対円安値となる 123 円台中盤まで下落することもなく、ギリシャの株式市場の急落や原油安による対ユーロや豪ドルで支えられた動きが対円にも影響していたようだ。さらに米経済指標に軟調な結果が続いているとは言っても、最も注目される雇用統計の発表が控えているとあって、下手にドルを売り込み過ぎて、強い雇用統計の結果にでもなれば夏休み期間中に余計な損失を計上してしまうことになるので、それは避けたいのだろう。今日、明日も製造業受注や ADP 雇用統計の発表も予定されているが、引き続きレンジ内での反応に留める値動きになるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。